

英語科学習指導案

指導者 小野 建

- 1 日 時 令和3年10月28日(木) 5校時
- 2 学 級 3年1組 男子15名 女子14名 合計29名
- 3 単元名 PROGRAM 5 The Story of Chocolate (SUNSHINE ENGLISH COURSE 3)

4 単元について

(1) 教材観

この Program は、『中学校学習指導要領解説外国語編』「(2) 読むこと ウ 社会的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の要点を捉えることができるようにする。」の目標を中心とした言語活動を進めていくことができる Program である。

題材として、褐色のスイーツとして世界中で愛されているチョコレートの誕生、生産、消費の歴史を扱っている。今ではだれでも口にすることのできるチョコレートは当初は一部の人たちにしか入手できない貴重なものであり、この100年ほどで世界じゅうに普及した。そしてその背景に原料となるカカオ栽培で搾取されてきた人々の存在にも言及する。こうした身近な食べ物の発達過程は生徒にとって大変興味深いものであると考えられる。

また、言語材料として関係代名詞主格 who, which, that を学習する。これらは、人、物事を詳しく説明する言い方であり、英語の理解力、表現力を広げたり深めたりするために不可欠な文法事項であると考えられる。

(2) 生徒観

本学級は、真剣に継続して学習に取り組むことができる生徒が多い半面、素直に学習に取り組むことができない生徒、継続して学習に取り組むことが難しい生徒、時には毅然とした指導が必要な生徒が混在しており、生徒個々にさまざまな配慮や指導の工夫が必要な学級である。生徒個々の意欲を喚起しつつ全体指導を推進するために、授業では個人、ペア、小グループ、全体といった学習形態を目的に合わせて活用してきた。語彙学習、音読練習、Scenes の暗唱を中心に指導し、結果として生徒は積極的に取り組んできた。家庭学習では週1回提出の単語練習、月2回程度提出の文型ドリルを課し、8割程度の生徒が提出する状況である。

こうした学習の積み重ねの結果として昨年度行われた英検 I B A では29人中英検3級相当13人、英検4級相当10人、英検5級相当6人といった結果だった。学級の78%が4級相当以上の英語力を身につけているが、22%の生徒は5級相当の英語力にとどまっております学習内容の定着に大きな差がある状況だった。5級相当の生徒は授業、家庭学習の両面において学習意欲が低い。この状況を解決するために、「学習メモ」(語彙や文法について教科書本文中にメモをした自作教材)の音読練習・発表を行った。右の表は実力テスト結果の経年比較である。R2の8月から40点以下の生徒の人数は9人、8人、6人と徐々に減少に転じており、取り組みは効果的だったと考えられる。

	R2 8月	R3 1月	R3 3月
70点以上	11人	9人	17人
40点~69点	9人	12人	6人
40点未満	9人	8人	6人
平均点	55.5	53.9	64.4

「読むこと」に関わっては本文のQAに応答できることを目標に据えて指導してきた。Yes-No Question に対しては約7割の生徒が正答できるようになってきているが、Wh Question に対しては約4割の生徒しか正答できないという状況である。生徒からは正確に英文の意味が掴めない、語彙力や文法力が不十分であるという報告があった。また、今年度は教科書各Programに設定されているRetellを行っており、本Programで5回目となる。Retellingへの取り組み当初は手探りの状態が続いていたが、3回目となるProgram3あたりからは荒削りながら上位層はピクチャーを使って相手を見て概要を4文、30秒程度の英語で発表することができるようになってきている。

(3) 指導観

本Programでは次の方針のもと指導を進めていきたい。

①生徒達に自信を持たせ、皆で学ぶ雰囲気を作るために

生徒の学習意欲、英語力に差が大きい学級であるため学習に対する意欲的な雰囲気を意図的に作っていく必要を感じる。意欲的な雰囲気を作るために指導内容の軸にすえる活動は音読が適していると考え。なぜなら音読は成果を個でも集団でも進歩を認識し、楽しみ、喜びを共有でき、共に学習を進めるために効果的な学習活動であると考えからである。一時一事、スモールステップの指導を徹底し全員にやるべきことを理解させ、音読の能力を高めていきたい。そして、生徒に自信を持たせ、皆で学ぶ雰囲気を作っていく。

②生徒達に主体的な学習を促すために

活動の効率を高め、ひいては学習の効果を高めるために、授業の焦点化、そして説明・発問・指示の焦点化を図り生徒の学習方法や学習そのものへの理解を促す。学習過程、学習活動をフォーマット化することで、生徒に授業の流れをより理解しやすいものにし、全体の見通しを持たせたい。また、これらを通して生徒の主体的な学習を促したい。基本的な学習過程とは、学習課題の把握、実演を見ながらゴールのイメージ化、既習事項の確認、考える学習活動、伝え合う学習活動、の流れであり、伝え合う学習活動の基本形は、ペア、4人程度の小グループとする。

③生徒が英語にたっぷり浸る時間を確保するために

生徒の英語力を伸ばすためには英語にたっぷり浸る時間が不可欠である。そのために教科書のScenes、Listen、Speak&Write、Thinkを指導していく中で注意することは、空白時間ゼロを目指すこと、取り組み方法や反復回数を変えながらスパイラルに練習を繰り返すことであると考え。また、RetellやInteractでは教師がモデルを示し目標を高く設定し、題材に深く向き合い発表とやり取りの活動で十分な活動時間を作り出す。このような方法で生徒が英語に浸る時間を確保していきたい。

④生徒達に学習段階を認識させ、より深い理解と高い技能を身につけさせるために

ペアワーク、小グループでの学習を大切にし、お互いに学び合い、褒め合うことで、個々に安心感を与え、結果として学びの質を向上させたい。その際、学習の判断基準に基づいて相互に指摘し合うように指導を展開し、個々人の学習がどの段階にあるのか、どうすればより深い理解が得られ、より高い知識や技能が得られるのか手がかりをつかませたい。

5 単元の目標

読むこと

チョコレートのお話についての英文を読んで概要、要点を捉えるとともに、その内容を基に自分の意見や考え、その理由を伝え合うことができる。

6 単元の評価規準

知識・理解	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>〈知識〉 関係代名詞の特徴やきまりに関する事項を理解している。</p> <p>〈技能〉 関係代名詞の意味や働きの理解を基にして、チョコレートの歴史について書かれた文の内容を読み取る技能を身につけている。</p>	<p>・チョコレートのお話についての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えている。</p>	<p>・チョコレートのお話についての他者の意見を知り、自分の意見や考えを伝えるために、英文の概要、要点を捉えようとしている。</p>

7 単元中の学習内容の指導と評価の計画

(○は主に「指導に生かす評価」、◎は主に「記録に残す評価」)

時間	言語活動	知	思	態
1	<p>①単元の目標を理解する</p> <p>②対話文で使われている関係代名詞 who の構造と意味を理解する。</p> <p>③関係代名詞 who を使って、自分が将来就きたい職業とその様子について表現する。</p>	○		
2	<p>①対話文で使われている関係代名詞 which の構造と意味を理解する。</p> <p>②動物の特徴を表すヒントを考え、クイズを作る。</p>	○		
3	<p>①対話文で使われている関係代名詞 that の構造と意味を理解する。</p> <p>②関係代名詞 that を使って、友だちを連れて行きたい「ある場所」を表現する。</p>	○		
4	①教科書本文の概要を掴み、本文についての質問に答える。			
5	②教科書本文の内容について絵を用いながら簡単な英語で概要、自分の意見、考えと理由を話す。		○	○
6 (本時)				
7	①教科書本文の内容について絵を用いながら簡単な英語で概要、			

	自分の意見、考えと理由を話す。 ②お互いの意見、考えと理由について感想を述べ合う。		◎	◎	
8	① Do You Know Who This Is?を行う。				
9	② Let's Talk about Famous People and Things.をノートに書く。 ③英語のしくみ	○			
10	わかりやすい文章を考える	○			
後日	ペーパーテスト	◎			

8 本時の達成目標（ねらい・身につけさせたい力）

- ・教科書P68（Think 3）について5文程度の英語で概要、自分の考え、その理由を述べる
ことができる。

9 評価場面での生徒の記述例（記述に基づいた発表例）

「Bおおむね満足できる」の記述例
Bと判断する状況
①メモを見て Think 3教科書本文の概要、自分の考えとその理由を話すことができる。 ②4文の英語で話すことができる。 ③ピクチャーを使って話すことができる。 ④相手を見て話すことができる。
Aと判断する状況（Bの状況との違いは下線部）
①何も見ずに Think 3教科書本文の概要、自分の考えとその理由を話すことができる。 ② <u>5文以上</u> の英語で話すことができる。 ③ピクチャーを使って <u>具体的に指し示して</u> 話すことができる。 ④相手を見て <u>抑揚、発音、間を意識して</u> 英語で話すことができる。 ⑤ <u>相手をひきつける表現（Do you know~? など）を入れて</u> 話すことができる。
Bの発表例 ・（ピクチャーのカカオ豆を指しながら） Many cacao beans are sold at an unfairly low price. Cacao farm workers are very poor. （ピクチャーのフェアトレードロゴを指しながら） Some people buy cacao beans at a fair price and sell "fair trade" chocolate. Let's buy "fair trade" chocolate and because it supports cacao farm workers.
Aの記述例(Bの状況との違いは下線部) ・（ピクチャーのカカオ豆を指しながら） <u>These are cacao beans.</u> Many cacao beans are sold at an unfairly low price. <u>So</u> cacao farm workers are very poor.

<p>(ピクチャーの子どもを指しながら) <u>Many of their children are forced to work on cacao farm.</u></p> <p>(ピクチャーのフェアトレードロゴを指しながら) <u>Do you know "fair trade"?</u></p> <p>Some people buy cacao beans at a fair price and sell "fair trade" chocolate <u>to improve cacao farmers' lives.</u></p> <p>Let's buy "fair trade" chocolate and because it supports cacao farm workers.</p>
<p>C 「努力を要する」生徒への手立て</p>
<p>①概要を掴んでいない生徒→学習メモを見ながら概要の中心となる英文に下線を引かせる。自分の考えをメモさせる。</p> <p>②相手を見て話すことができるよう内容を掴めるように繰り返し練習する。</p> <p>③相手をひきつける発言を発表に組み込んで話せるよう繰り返し練習する。</p>

10 振り返りの例

- ・相手を見て、絵も使って、5文で内容と自分の考えと理由を話すことができた。
- ・5文で話すことができたが、絵を使って話すことができなかった。練習をしてだんだん絵を使うことができるようになった。
- ・始めは話す内容が分からなかったが、練習をしていくうちに、だんだん英語が覚えられて、話せるようになってきた。
- ・始めはなかなか自分の考えが思いつかなかったけど、retell を何度もしているうちに話す内容を相手から学んで真似をして少しずつ言えるようになった。
- ・始めはなかなか話す内容が分からなかったけど、retell を何度もしているうちに話す内容を相手から教えてもらって少しずつ言えるようになった。

11 本時の展開

段階	学習活動	指導上の留意点 ◇見方・考え方を働かせる場面 ○評価の観点・【評価方法】	教材・役割分担 (J、A)
導入	1 あいさつ	◇あいさつをする。天気、時間、曜日、日付を聞く。	J=JTE A=ALT
2 分	2 学習内容と学習課題の把握と評価 規準の確認	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>学習内容 Think3 内容理解と Retell</p> <p>① Newwords ② ○×Q-A ③ 音読練習 ④ Retell 4回 * 3, 4回目は何も見ないで話す。</p> </div>	JA A、板書
展開 45分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>Let's Retell ! About The Story of Chocolate (Think 3)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Retell の評価規準 (B 規準)</p> <p>①メモを見て Think 3 教科書本文の概要、自分の考えとその理由について話すことができる。</p> <p>② Think 3 教科書本文の概要、自分の考えとその理由について 4</p> </div>		紙板書

	<p>文の英語で話すことができる。</p> <p>③ピクチャーを使って話すことができる。</p> <p>④相手を見て話すことができる。</p> <p>(A 規準)</p> <p>①<u>何も見ずに Think 3</u> 教科書本文の概要、自分の考えとその理由について話すことができる。</p> <p>② <u>Think 3</u> 教科書本文の概要、自分の考えとその理由について <u>5文以上</u>の英語で話すことができる。</p> <p>③ピクチャーを使って話すことができる。</p> <p>④相手を見て<u>抑揚、発音、間を意識して英語</u>で話すことができる。</p> <p>⑤<u>相手をひきつける表現 (Do you know~? など)</u>を入れて話すことができる。</p>	
3 New Words の確認	<ul style="list-style-type: none"> ① repeat ②英→日 ③日→英 	J,A フラッシュカード ワークシート
4 内容理解ポイント確認	<ul style="list-style-type: none"> ①○× (英語) ②教科書下部 Questions 2問 (英語) 	CD
5 Listen to the CD	<ul style="list-style-type: none"> Listen to CD × 1 本文を概要を掴む 	J,A 机間指導 A
6 Understand the contents	<ul style="list-style-type: none"> 5の①②に答える。読み取りポイントと関係する本文箇所アンダーラインをさせる 4分 リピート1文2回 全体読み1回 グループ読み 一斉1回、一人一文読み1回 日本語 retell ペアで一人1分 日本語 retell 指名 1人 生徒とのやり取りを通して5①②の答えを確認する。 	A A J
7 Reading aloud	<p>「学習メモ」を使って Retell の準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①一斉読み1回 ②モデル retell ③ retell の準備1分 ④ retell 自主トレ1分 	学習メモ ピクチャー
8 Retell	<p>◇ Retell をする</p> <ul style="list-style-type: none"> ① retell 1回目 第1ペア30秒ずつ ペアで評価の観点に沿って、できていることを褒め合う 評価1回目 (ワークシート「練習」欄記入) ② retell 自主トレ1分 ③ retell 2回目 第2ペア30秒ずつ ペアで評価の観点に沿って、できていることを褒め合う ④ retell 自主トレ1分 	

		<p>⑤ retell 3回目 第1 ペア 30秒ずつ 《相互評価》評価の観点 Retell 評価規準①～⑤</p> <p>◇○教科書本文について英語で話すことができる。 【4回行う Retell の内、3回めの活動を評価し合う。 判断規準①～⑤を相互評価で確認する。A Bで評価。 どの観点も A を目指しアドバイスし合う、次の最後の自主トレで練習する。】</p> <p>⑦ retell 自主トレ 1分 ⑧ retell 4回目 4～5人グループ 30秒ずつ ⑨全体で代表者発表 1～2名程度</p>	
<p>終 末 3 分</p>	<p>9 本時の振りかえりをする。</p> <p>10 あいさつをする</p>	<p>◇イエローシートに本時の振りかえりを記入する。</p> <p>◇あいさつをする。</p>	<p>J</p> <p>J、A</p>

Program 5 Retell 評価用紙 3年 組 番 名前

	練 習	本 番
<p>①教科書本文の概要、自分の考えとその理由について</p> <p>A 評価 <u>何も見ずに</u> 話している</p> <p>B 評価 メモを見て 話している</p>	A B	A B
<p>②教科書本文の概要、自分の考えとその理由について</p> <p>A 評価 <u>5文以上</u> で話している</p> <p>B 評価 4文 で話している</p>	A B () 文	A B () 文
<p>③ピクチャーを使って</p> <p>A 評価 <u>具体的に指して</u>話している。</p> <p>B 評価 話している</p>	A B	A B
<p>④相手を見て</p> <p>A 評価 <u>抑揚、発音、間を意識して</u>話している</p> <p>B 評価 話している</p>	A B	A B
<p>⑤相手をひきつける表現 (<u>Do you know~?</u> など) を入れて話すことができる。</p>	○ ×	○ ×

自己の学習状況の把握・アセスメントのための構造図